

事業内容：防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業
学校防災アドバイザー活用事業の実施

題 名：防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業
 (命の大切さを考える防災教育公開事業)

ー生徒たちが支援者「共助」としての視点から、被災地への
 災害ボランティア活動等を行うことを通じて、自覚を促し、
 地域の一員として貢献する意識を高めるー

所属・電話番号：八街市教育委員会学校教育課・043-443-1446
 指導主事 磯辺邦彦

1 実践事業

- (1) 災害ボランティア活動の推進
- (2) 防災に関する指導方法の工夫

2 事業概要

生徒が災害発生時の物的・人的備えに加え、「共助」の根幹となる心の備えを醸成していくための活動とする。被災地への実際の訪問、全校生徒への伝達、全校を挙げた復興支援へと繋げることにより、継続的なボランティア活動を形成していく。

また、上記活動を通じ、自らが被災した時を想定し「自助」「共助」の在り方の具体的な姿を学習し、防災に対し、主体的に行動する態度を育成する。

3 実施概要

実施時期	計 画 事 項	参加者
5/29	○第1回実践委員会 ・活動予定について	実践委員
9/1	○先進校訪問 (八街南中)	生徒会
9/17	○災害ボランティア関係者の講話(塩竈市ボランティア団体代表：會澤純一郎氏)	防災アドバイザー 全校生徒 実践委員 教職員
9/24	○第2回実践委員会 ・取組の検討、ボランティア訪問事前打合せ	実践委員

実施時期	計 画 事 項	参加者
10/2 ～3	○被災地ボランティア訪問 (宮城県塩竈市) ・南三陸町防災庁舎跡慰霊 ・大川小学校跡慰霊 ・東松島市仮設住宅訪問	防災アドバイザー 生徒会 希望生徒 教職員 社会福祉市教委
11/14	○被災地ボランティア訪問報告会 (八街中央中体育館)	全校生徒 学区小学6年生 教職員 地域住民 教育長 社会福祉市教委
11/21 ～12/27	○被災地へ向けたメッセージ活動 ・ペットボトルツリー作成(被災地復興への願い) ・八街駅前広場に、ペットボトルツリーを展示(点火式)	全校生徒 地域住民 市教委

ア 協議等

実施時期	計 画 事 項	参加者
11/26	○市内福祉、一般市民、教育関係者に向けて活動報告会	生徒会 市長 教育長 地域住民 社会福祉 市教委
12/4	○第3回実践委員会 ・事業の検証 ・今後の実践的防災教育活動について	実践委員

(ア) 事業説明及び役員の選出 (イ)

- (イ) 協議「今後の活動予定について」
- ・訪問被災地の決定
 - ・ボランティア活動日及び行程
 - ・活動内容について（ボランティア部 物品配付活動）
 - ・参加人員について

(2) 防災アドバイザーによる講話

平成27年9月17日（木）

14:00～ 於：八街中央中学校

會澤純一郎氏

（塩竈市民ボランティア「希望」代表）

4 実践委員会

	氏 名	所属等
1	會澤純一郎	防災アドバイザー
2	浅沼 浩	県教育庁北総教育事務所指導主事
3	石毛 勝	市社会福祉協議会会長
4	綿貫 敏宏	市社会福祉協議会事務局
5	井口 安弘	市防災課主幹
6	吉田 昌弘	八街中央中学校長
7	曾根崎高志	八街中央中学校教頭
8	榊原 岳	八街中央中学校教務主任
9	清水 賢	八街中央中学校生徒会担当
10	森田 夕介	八街中央中学校生徒会担当
11	星 彩子	八街中央中学校生徒会担当
12	浅野 和彦	八街中央中学校PTA会長
13	石井 佳樹	八街中央中学校PTA顧問
14	磯辺 邦彦	八街市教育委員会学校教育課指導主事

ア 演題『被災地の現状と課題』

イ 対象：八街中央中生徒600名、
地域住民40名

(3) 被災地派遣ボランティア活動



平成27年10月2日（金）

～3日（土）

- ・訪問場所：宮城県南三陸町・石巻市 東松島市
- ・参加者数：生徒30名、引率者5名
- ・視察場所：南三陸町合同防災庁舎
：石巻市立大川小学校
：開成団地仮設住宅

5 具体的な取組

(1) 第1回実践委員会

平成27年5月29日（金）

15:30～ 於：八街中央中学校



【會澤純一郎氏より】

被災地を見るということは

ア 東日本大震災の被害状況を理解して、自分のできる支援を考える。

イ 自然の大災害の恐ろしさを学ぶ。

ウ 自分とまちの防災意識の大切さを学ぶ。

※「現地をよく見て、感じて、被災者の話を聞いて、考える。」ことが大切である。

※被災地を訪れることは自分の生き方の発見である。

【行程】

- 10/2 20:00 八街中央中学校 発
- 10/3 7:30 南三陸町合同防災庁舎視察
慰霊
- 9:00 石巻市立大川小学校視察
慰霊
- 10:45 石巻市開成団地
仮設住宅訪問
- ・交流活動会（合唱等）
 - ・八街市及びボランティア部
作成の地産物配付
- 12:30 全体式
- 13:00 昼食
- 13:45 学校に向け出発
- 20:30 帰校・解散

震災から4年6か月経った今でも、なかなか復興が進まないまちの様子を実際に見て、生徒たちは様々な思いをめぐらせていた。

南三陸町防災庁舎の跡地では、防災アドバイザーである會澤さんから想像を絶する現実の話聞きながら、庁舎の折れ曲がった鉄骨等を見て、津波の高さや恐ろしさを感じ取ることができた。

大川小学校跡地では、校庭や残された校舎のたたずまいを見ながら、当時の犠牲になった児童の様子を思い描き、どのような対応が必要だったのか考えることができた。

石巻市開成団地では、同じ行程で行動していた八街南中の吹奏楽部員と合同で、仮設住宅の方々へ、演奏や、ともに歌って踊って楽しめる出し物を披露した。その後、生徒たちは八街市の地産物（野菜ジュース・みそピーナッツ・菜の花の種等）を配付しながら、仮設住宅の方々と温かい言葉がかわされている様子がうかがえ、大変満足した表情だった。

(4) 訪問後の活動

ア 作文方式による活動報告書の作成

(ア) 【作成項目】

- a なぜこのボランティアに参加しようと思ったのか。
- b 被災地を視察してどのような感想を持ったか。
- c 活動を体験して感じたこと。
- d これからできること、しなければならないこと。

イ 校内及び学区の地域住民への活動報告会の開催

(ア) スライドショー画像の作成から発表

(イ) 代表者による感想の発表

(ウ) 画像を含んだ掲示物の作成

(エ) 発表を聞いての在校生の感想と感想文の掲示

ウ 一般市民・教育・福祉関係者に向けての活動報告会の開催



「八街市社会福祉大会」における発表

平成27年11月26日（木）

13:30～ 於：八街市中央公民館

出席者：市長をはじめ市内各官庁、教育、福祉、安全協会等の諸機関及び一般市民

テーマ：『東日本大震災

被災地支援活動』

スライドショーを用いた体験報告

市の社会福祉大会の場で、大勢の市民を前にして被災地支援活動の報告を行った。八街中央中のほかにも、八街中、八街南中が報告を行った。

報告ではまとめとして「①被災した地域や人々を継続的に支援すること、②自然の脅威を実感的に学べたこと、③地域の防災意識を高める必要があること」を述べた。

また、参加した生徒たちから、「とても貴重な体験をさせていただいた。被災地で感じたことや現状を多くの人に伝える責任がある。」「津波による災害の大きさは想像を絶するものであった。」「この逆境にもかかわらず、復興に向けて力強く、たくましく生きている方が大勢いる。現実を受け入れ、命を大切にしっかりと生きていきたい。」「私たち一人ひとりが灯りとなり、東北の被災地を照らしていかなければならない。」という感想が寄せられた。

この活動を通して、社会づくりに貢献しようという意識の高まりを感じた。



6 成果と課題

【成果】

- (1) 復興がままならない現地へ足を運び、災害アドバイザーの話聞き、自然災害の恐ろしさや復興の大変さを自分の目と耳で実感することができた。そして、一人ひとりが災害を自分にも関係することとしてとらえ、防災やボランティア活動への関心を高めることができた。
- (2) 実際にボランティア活動を行い、自分たちも役に立つことができるという達成感を得ることで、社会のために「気づき、考え、実践できる」という意識が高まった。
- (3) 命の大切さや困っている人たちに対する思いやりの気持ちを養うことができた。
- (4) ボランティア活動を通じて学んだことを全校生徒や保護者、地域の人たちに発表する場を設けることで、社会づくりに貢献する意識を高めることができた。
- (5) ボランティア活動に参加できなかった生徒においても、全校集会で會澤さんの話を聞いたり、報告会に参加したりすることによって、自然災害の恐ろしさを知り、防災やボランティア活動に対する関心を高めることができた。
- (6) 仮設住宅に、賛同していただいた団体や八街市から、特産物の落花生や野菜ジュース、花の種等たくさんものを届けることができた。會澤さんを介し、八街市と被災地が防災教育という観点から交流を進めることで、まちぐるみで「共助」する関係を深めることができた。

【今後の課題】

- (1) 生徒たちが支援者「共助」の視点から災害ボランティア活動を通じて育んだ知識を、今後、地域の一員として貢献できるよう、学校・地域・関係機関が連携した学校防災体制の充実を図る必要がある。
- (2) 今後、東北への災害ボランティア活動を継続した取組としていくためには、予算措置について課題がある。多くの生徒がボランティアに参加したいという思いが強いのに反して、人数を絞ってボランティア活動に参加せざるを得ないのが現状である。

八街市としても当該校においても、今後も、今回の実践を生かし、息の長い取組と自助・共助の意識を高めた防災教育の推進を充実させたい。現在は、八街中学校はPTA活動費を利用して学校独自で継続して被災地訪問を行っている。また、市の社会福祉協議会からの援助金によって1校（今年は八街南中学校）が被災地を訪問している。

- (3) 前日の夜8時に出発し、当日の夜8時に帰着するという、深夜バス内で仮眠をとるという強行日程であるため、生徒・職員ともに健康的な面において負担が大きい。

